

「むかわ町地域公共交通計画(素案)」に関する パブリック・コメントの結果について

むかわ町では、鉄道やバスなどの再構築に関する取り組みや、地域の公共交通サービスについての施策等をまとめた「むかわ町地域公共交通計画」を策定することとし、この度、計画案を取りまとめました。

この「むかわ町地域公共交通計画(素案)」に対する町民の皆様のご意見などを広くお聞きするため、パブリック・コメント(意見募集)を実施しました。ご意見をお寄せいただきました皆様に御礼申し上げます。

1. 意見募集期間

令和5年12月15日(金)～令和5年12月29日(金)

2. 意見提出人数

6人

3. 意見提出件数

23件

4. お寄せいただいたご意見・ご提案と町の考え方

No	ページ	意見の概要	町の考え方
1	27P	バスの運行実績で乗客数が1～2名というような路線の場合、車体をハイエース等のワンボックスカーに変えても充分対応可能であり、経費の削減に努めるべきではないか。	ご指摘のとおり、バス路線の車両については、車両更新時にダウンサイジングをすることで公共交通関連経費の削減に繋がるため、【基本目標7 バス・タクシーの安定的な運行の維持】につながる事業として以下のとおり追記します。 ○運行車両の小型化による経費削減 ・運行車両の更新時のダウンサイジング
2	27P	厳しい町財政を鑑み、公共交通に係る費用対効果を今一度見直し、不採算路線の廃止も見据え効率的な運営を望む。	効率的なバス路線の運営については、【事業1 ○既存バス路線の再編、ルート変更の検討・実施】に記載のとおり、利用者の少ないバス路線の見直しを進めます。
3	31P	高齢ドライバーの免許返納を促すためにも、緻密な公共交通機関網を構築し、日常の足として運用しやすくするよう小回りがきくコンパクトサイズ(10人未満の普通免許車種)の乗り合い車が必要だと考える。そのため穂別地区で計画されているようなサポート交通が鷺川地区においても必要になってくるのではないか。	サポート交通については、持続可能な新たな移動手段として穂別地区において導入いたします。一方、鷺川地区については、【事業1 ○既存バス路線の再編、ルート変更の検討・実施】に記載のとおり、まずは既存バス路線の見直しなどを進め、効率的な公共交通を目指します。
4	40P	サポート交通について、冬の実証実験も必要ではないか。夏は家用車に乗っていても、冬の運転はしたくないという人が多いと思うので、利用状況は変わるはず。また、道路状況の問題点などもあるはず。	ご指摘のとおり、穂別地区におけるサポート交通の導入にあたっては、冬期の利用状況を把握する必要があると考えております。今後、冬期の実証実験について検討いたします。
5	41P	栄・仁和・豊田地区の方から、土曜日・日曜日・祭日にタクシーを利用したくても利用ができないという声をよく聞く。	【事業2 ○利用者ニーズに応じた運行ダイヤ等の見直し】に記載のとおり、利用者ニーズに応じた交通便利性の向上に努めてまいります。

6	42P 43P	地域交通の在り方は子供たちや高齢者に寄与する施策であり優先課題である。	ご指摘のとおり、子どもや高齢者など、交通弱者の方の移動の支援となるよう、計画に基づく事業を進めてまいります。
7	43P	セレスが今後撤退し、町内での買い物が更に不便となるため、町内の各エリアから発着する乗り合い所を新たに作成し、ドライバーにはシルバー人材の若手から募るのも良いのではないかと。	【事業1 ○既存バス路線の再編、ルート変更の検討・実施】に記載のとおり、公共施設等へのアクセス改善に努めてまいります。また、運転手不足は深刻な問題であることから、【事業15 ○バス・運転手確保に向けた取組の実施】に記載のとおり、運転手の確保対策を検討してまいります。この度、いただいたご意見についても運転手不足の解消に繋がる貴重なご意見として参考にさせていただきます。
8	47P	ライドシェアに関しては来年度以降に大幅な解禁が決まっているため、地域のハイヤー会社と協力、もしくは苫小牧や千歳方面の会社と協力するなど、広域で導入を促進する必要があると考えております。また、利用実態に合わせて一定程度の金額を町で負担するなどすることも一案かと思っております。	【事業16 ○新たなモビリティの検討・実証・導入】に記載のとおり、ライドシェアも含めて新たな移動手段のあり方について調査・研究を進めてまいります。
9	47P 48P	通学バスについて、生徒の居住から学校までドアtoドアの運行にしてはどうか。また、通常の路線バスについても運行エリアを細分化し、所要時間の短縮及び運行回数を増やしてはどうか。運行ルートについては毎年見直すことを提案する。	スクールバスの運行については、【基本目標2 通学実態・ニーズに応じた通学手段の見直し】に記載のとおり、通学時間や実態にあった運行を目指し、運行時間の短縮や効率的な運行に努めてまいります。一方、既存のバス路線については、【事業1 ○既存バス路線の再編、ルート変更の検討・実施】に記載のとおり、既存バス路線の再編やルート変更などを進め、効率的な公共交通を目指します。
10	48P	コスト削減やきめ細やかな運行のため、大型バスを小型化し、且つ、子ども等の利用促進のためキャラクターのラッピングを施してはどうか。	ご指摘のとおり、バス路線の車両については、車両更新時にダウンサイジングをすることで公共交通関連経費の削減に繋がるため、【基本目標6 バス・タクシーの安定的な運行の維持】につながる事業として以下のとおり追記します。 ○運行車両の小型化による経費削減 ・運行車両の更新時のダウンサイジング また、運行車両ラッピングについては、貴重なご意見として参考にさせていただきます。
11	48P	通学においてはスクールバスを導入することがコスト及び学生の利便性からも良いのではないかと考えます。また、スクールバスに一般の方も相乗りできるようにすることで、地域ニーズにも一定程度利活用が可能になるのではないのでしょうか。	既存のバス路線において、一般の方も乗車可能なスクールバスとして運行しております。今後は【基本目標2 通学実態・ニーズに応じた通学手段の見直し】に記載のとおり、通学時間や実態にあった効率的で利便性の高い運行を目指します。

12	49P	公共交通利用促進の取組みは工夫をして進めてほしい。将来免許返納者は増えていくため、今から公共交通を利用して守っていくという意識の醸成が必要と考える。	ご指摘のとおり、公共交通を守る意識の醸成は非常に重要であるため、【事業12 ○公共交通を守り育てる意識の醸成】に以下の取組を追記します。 ・地域公共交通利用促進に関する効果的な広報の実施
13	49P	地域内公共交通に関しては宅配などの物流問題の解消にも関連づけて課題解決を図る必要があると考えています。ライドシェアやバスなどに荷物を載せて鷗川地区・穂別地区間を運ぶなどといった取組みを通してコスト抑制を実施してはいかがでしょうか。	【事業16 ○新たなモビリティの検討・実証・導入】に記載のとおり、ライドシェアも含めて新たな移動手段のあり方について調査・研究を進めてまいります。
14	49P	電車やバスの接続に関しては接続検索サービスを活用する等の利便性向上につながるサービスを活用できるよう、情報発信に力を入れるべきかと思えます。	ご指摘のとおり、公共交通利用促進に繋がる情報発信は非常に重要であるため、【事業12 ○公共交通を守り育てる意識の醸成】に以下の取組を追記します。 ・地域公共交通利用促進に関する効果的な広報の実施
15	49P	通学通勤者、高齢者定住のため、定期的にイベントを開催してはいかがでしょうか。	ご指摘のとおり、【事業11 ○公共施設や道の駅、各種団体等と連携した公共交通の利用促進】に記載のとおり、各種イベント等と連携した公共交通の利用促進に努めてまいります。
16	50P	マイカー借上げやサポート交通等、地域で支え合うことができるまちづくりが理想。	【事業16 ○新たなモビリティの検討・実証・導入】に記載のとおり、ほべつサポート交通の導入支援を進めるとともに、新たな移動手段のあり方についても調査・研究を進めてまいります。
17	50P	ほべつサポート交通については、ぜひ本格的に実施してほしいが、運転手の確保が大きな課題だと思うので、住民の協力を得られるよう、行政のみならず、いろいろな方面からPRしてほしい。	【事業16 ○新たなモビリティの検討・実証・導入】に記載のとおり、ほべつサポート交通の導入支援を進めてまいります。また、導入にあたっては、運転手の確保をはじめ地域課題への対応に考慮して検討してまいります。
18	50P	「グリーン・スロー・モビリティ」の意味が分からないので、分かりやすい言葉で記載してほしい。	ご指摘のとおり、わかりやすい表現とするため、以下のとおり修正いたします。 ・【事業16 ○新たなモビリティの検討・実証・導入】の「グリーン・スロー・モビリティの検討・実証」を「ほべつサポート交通の導入支援や市街地における低速電動車を活用した移動サービス(グリーン・スロー・モビリティ)等の検討・実証」と記載します。

19	50P	2つの拠点市街地があるむかわ町においては市街地内を運行する循環路線と鷓川地区と穂別地区を結ぶ長距離路線の2つをイメージし、路線の整理をする必要があると感じています。バス以外の選択肢としてハイヤーやライドシェア等の組み合わせが候補になるかと思えます。また、市街地循環路線と長距離路線、他の公共交通機関への乗換が円滑に行えるようなターミナルのような場所を整備することで、それぞれの利用促進が可能になるかと思えます。例としては鷓川地区の鷓川駅前を利用し複数のバス、電車、ハイヤー、ライドシェアが接続できる環境を整えることをイメージしています。	ご指摘のとおり、路線の整理については、【事業1 ○既存バス路線の再編、ルート変更の検討・実施】に記載のとおり、まずは既存バス路線の見直しなどを進め、効率的な公共交通を目指します。また、バス以外の新たな手段の検討については、【事業16 ○新たなモビリティの検討・実証・導入】に記載のとおり、ライドシェアも含め調査・研究を進めていくほか、交通結節点等の整備については、【基本目標6 快適な公共交通利用環境の充実】に記載のとおり、鷓川駅等の交通結節点において乗換・待合環境等の整備を進めてまいります。
20	50P	JRに関しては鷓川駅の拠点化を行ない、公共交通のターミナル化、カフェ・商店などの誘致などを行い賑わいの創出もあわせて実施していくことはいかがでしょうか。また、鷓川駅から苦小牧駅への利用を促進するためにも苦小牧駅前側の賑わい創出も必要になってくると考えているため、広域での駅前改革が必要かと思えます。	ご指摘のとおり、鷓川駅の拠点化については、【事業13 ○JR鷓川駅の機能強化】に記載のとおり、JR鷓川駅周辺環境整備やJR日高本線との接続強化に努めてまいります。また、JR日高本線を軸とする広域連携についても沿線自治体と協議を進め検討してまいります。
21	50P	「無人バス」や「キックボード」など新交通システムを活用し、利便性の向上と経費削減に努めることを求めます。	いただいたご意見を参考にさせていただき、【事業16 ○新たなモビリティの検討・実証・導入】に記載のとおり、新たな移動手段のあり方について調査・研究を進めてまいります。
22	50P	点在する農村集落への対応としてサポート交通の導入が有効であり、また、宅配も併せて実施することで雇用拡大及び収入増につながるのではないかと。	サポート交通については、持続可能な新たな移動手段として穂別地区において導入いたします。また、導入にあたり、いただいたご意見については、雇用拡大等に繋がる貴重なご意見として参考にさせていただきます。
23	52P	PDCAサイクルを活用し、スピーディーな改善を求めます。	ご指摘のとおり、PDCAサイクルにより計画の見直しや改善に努めてまいります。